

長野県植物誌分布図作成システムについて

山本雅道・豊国秀夫*

M. Yamamoto and H. Toyokuni : Computerised map-drawing system for *Flora of Nagano Prefecture*

長野県植物誌 (Flora of Nagano Prefecture) のために植物誌調査員・執筆者および一般篤志家の皆様のご努力によって集めていただいた植物標本は5万点を越え、調査表のデータは約10万件に達している。それらのデータは信州大学当局の補助を受け、信州大学情報処理センター松本分室の大型機のディスクに常駐されている。大型機による作図のプログラムはまだ作成されていないが、パソコンによる分布図の作成が可能になったのでお知らせする。

現在では、データ数が15万件を越えるために、パソコンによるデータの一括処理は無理になっている。そこで大型機にデータを常駐させ、必要部分 (科・属・種) を切り出してパソコンで作図することにした。大型機を使用しての、標本に基づく分布図の作成については様々な報告があり (例えば66万点の標本と毎年の増加2万点を処理している報告 Gibbs Russell & Arnold 1989), 羨ましい限りであるが何分にも予算的裏付けに乏しく、目下のところ信大に全面的に依存している編集委員会であるので、この点お許し願いたい。

作図方式はパソコンのプリンターの制約やプログラムの問題から、1/5万の地図の1/16メッシュ (清水建美・金井弘夫 1979, 清水建美 1984) ごとに有無を表示する方法を採用した (図1-5)。そのために、分布図はやや縦長となっている。本格的にこの分布図の作成が可能になるのは本年8月以降となる予定である。差し当たって植物誌の完成までは、長野県植物誌の編集資料を重点的に処理し、必要に応じて、プログラムおよび科別のデータは当該科の担当者に内部資料として提供する。また、信大内部で教育上長野県の植物データが必要な場合も上の処置に準じたいと考えている。植物誌完成後の一般への提供方法などについては、その時点で検討する。

なお、これはパソコン汎用のプログラムではないので、次の機器が必要である。パソコン (PC 9800) 一式、できれば10Mb以上のハードディスク (科によってはデータが1Mbを越えるため)。

最後に、種々ご援助戴いた信大当局にお礼申し上げる。

けるとともに、長野県植物誌編纂にコンピュータを導入され、基礎づくりに尽力された清水建美名誉会長および国立科学博物館の金井弘夫博士に感謝申し上げる。

文 献

1. 清水建美・金井弘夫 1979「長野県植物誌」作成の方法。長野植研誌 12: 50-54。
2. 清水建美 (編) 1984 コンピュータ利用によるフロラ作成と地理学的解析。昭和57・58年度科研費補助金 (試験研究) 成果報告書 pp. 64。
3. Gibbs Russell, G. E. and T. H. Arnold 1989 Fifteen years with the computer : assessment of the "PRECIS" taxonomic system. in Taxon 38 (2): 178-195.

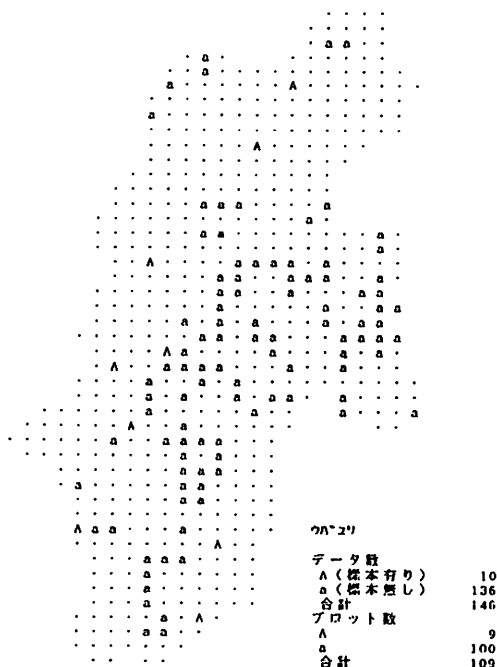


図1-5 ユリ科の作図例:

図1 ウバユリ *Cardiocrinum cordatum*

* 信州大学教養部生物学教室

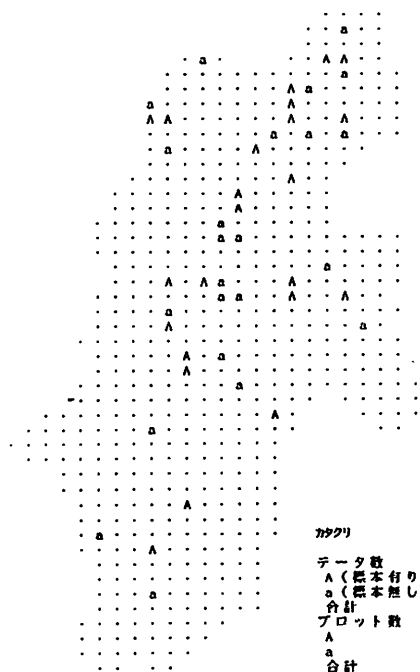


図2 カタクリ *Erythronium japonicum*

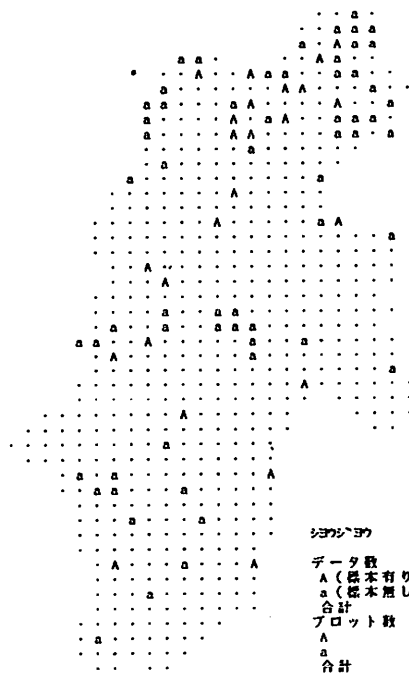


図3 ショウジョウバカマ *Heloniopsis orientalis*

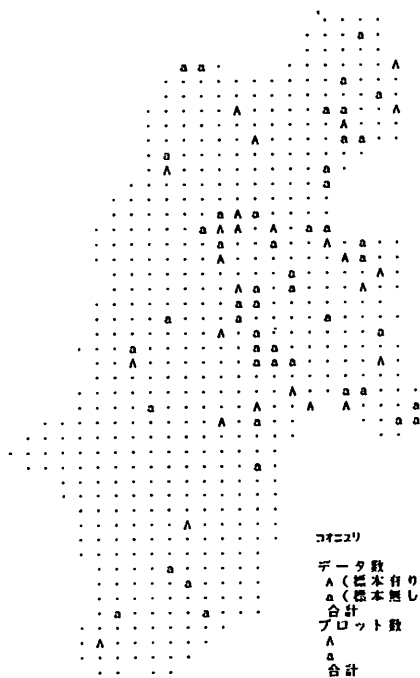


図4 コオニユリ *Lilium leichelinii* var. *tigrinum*

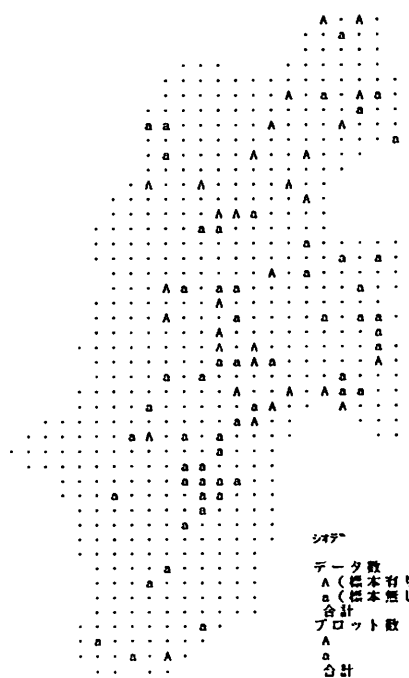


図5 シオデ *Smilax riparia* var. *ussuriensis*